

白山ふるさと文学賞

第五回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁鳥敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

中高校生の部 優秀賞

ありがとうの言葉

鳥越中学校一年

山本 やまもと

亜美 あみ

私のお母さんは、

「自分のお皿は自分で洗いなさい。」

と言います。私のお母さんは、私の友達が来ていても

「静かにして。」

と怒ります。私のお母さんは、私の自転車を置くところに、いつも洗濯物を干します。

そんなお母さんが、嫌になって、ついついきつくあたってしまいます。

その場で口げんかになるのですが、なぜかいつも私がかまってしまうことになりません。その時の私の気持ちは、「私の方が正しい事言ってるのに。」それをずつと心の中で繰り返しています。途中で口が止まって、だまってしまふ自分が情けなくて、許せなくて、こう言えば良かった、ああ言えば良かった・・・などと思っていました。

けんかした次の日の朝は、あまり喋りたくないのです、返事は小さい声で、「うん。」とか「分かつとる。」としか言いません。そうすると今度はお父さんが怒ります。お父さんにはさからえないので、謝るしかありません。こうして最悪な朝から一日が始まることなのです。

そんな私のお母さんですが、今年の二月ぐらいに、生まれて初めてお母さんから相談を受けたのです。

私のお母さんは看護師です。でも、その仕事がとても大変らしく、八年間も働いてきた病院をやめることになりました。そして入ったのが「保育園」です。〇く一才児の部屋に看護師が必要だそうなので保育園に勤めることになりました。

それからのお母さんは結構変わりました。夜ご飯の時に、

「今日〇〇君が・・・。」

と楽しそうに話すようになりました。それには私自身も「お母さん楽しそう。良かった。」と思いました。

しかし、私が六年生の時、合宿に行った夜、お母さんは、何度も吐きトイレの前で立てなくなったそうです。そして私が合宿に行っている間

に父・姉・妹の全員が同じ症状で苦しんだそうです。原因はお母さんに子どもの病気がうつってしまったことでした。

これでお母さんは私に相談してきました。

「お母さん、あんまり体強くないし、前みたいにみんなに病気がうつしたくないから仕事やめたいんや。」

私はびっくりしたけど反対の言葉はありませんでした。でも、仕事をやめてその後どうするのか聞きました。すると

「看護師に戻る。」

と言いました。お母さんは「看護師の仕事から離れて、やっぱり看護師の仕事が好きだと思えたし自分にも合ってるんじゃないかと思う。」というようなことを話しました。私は、

「お母さんは一回、看護師の仕事が大変と思ったからやめたのに、また戻って同じ理由でまたやめるっていうのは絶対許されんことやと思うよ。でもそうならんように頑張ってみたら。」

私は思っていたことを全部話すと

「亜美に言われて自信ついた。ありがとう。頑張ってみるわ。」

と言いました。私はその時、心の中にスーッと風がふいたようなすつきりした、いい気持ちになりました。「頑張れ!!」と思いました。

今でもお母さんは看護師をしています。昼ご飯の時間も遅いし、一日中立ちっぱなしで疲れていると思うけど、毎日頑張っています。疲れるけど頑張るといのが仕事なんだと思います。患者さんが「ありがとう。」と言ってくれると嬉しいとお母さんは言っていました。働くど、たくさん「ありがとう。」が聞けると思っています。そんな嬉しいことを私もやりたいと思いました。

私は、将来、医療関係の仕事につきたいです。この夢はお母さんの影響でもあります。以前、お母さんが私に夢を聞いてきた時に、この夢を話すと

「え、え！本当になりたいん!？」

と、とても嬉しそうでした。

「看護師もいいけど、助産師もいよいよ。」
とずっと話していました。そして、

「勉強も大変やし時間もかかると思うけど、頑張れ！」
そう言ってくれました。

私はお母さんを嫌いな時がたくさんあります。でも、好きな時も嫌いな時もあったといいと思います。そこから、たくさん学んで、たくさん感謝して生きていきたいです。

私の世界でたった一人のお母さん。いつもありがとうございます。

